



Investment  
Managers

# Climate Progress Report

November 2023

# “ご挨拶 マルコ・モレリ

エグゼクティブ・チェアマン

私たちの業界は、ネットゼロを達成するためのコミットメントを積極的に行っています。そして投資家は、グリーンへの移行と、より持続可能で公正かつ包摂的な未来を推進するために積極的な役割を果たすことができます。

しかし、現実世界の課題が誓約の背後にある理論に重くのしかかるなか、気候変動、生物多様性の喪失、社会的不平等について考えるとき、私たちは全体として成功をどのように定義するのでしょうか。

今年3月、アントニオ・グテーレス国連事務総長は気候変動に関する政府間パネルの最新の報告書を発表し、すべての国の各セクターに「気候変動対策を大幅に加速するように」と呼びかけました<sup>1</sup>。

この緊急性に対するグテーレス事務総長の感覚は適切であり、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・グループ（以下、アクサ IM と表記します）は今年の気候レポートで示している通り、投資家および会社として、2050年のネットゼロ目標に向けて前進することを固く決意しています。

資産運用業界が激動の市場と環境に直面した2022年は、資産運用会社にとって厳しい年となりました。

しかしそうした状況でも、**アクサ IM プログレスモニター**の指標で明らかのように、ネットゼロの中間目標に向けてアクサ IM は着実な進展を遂げています。

モニターの指標は、アクサ IM の既に広範なデータを補完し、アクサ IM のコミットメントと行動が、企業としてポートフォリオにおける脱炭素化行動、エンゲージメント活動、そして資本を振り分けるための ESG に関するオフリングを通じてどのように変化に影響を与えているかに焦点を当てています。

初版となる今回、私はアクサ IM が達成したことや学んだことを誇りに思います。

脱炭素化は効果的な移行の中核となります。

<sup>1</sup> <https://press.un.org/en/2023/sgsm21730.doc.htm>

<sup>2</sup> <https://www.axa-im.com/sites/corporate/files/2022-02/20220225-AXA-IM-Climate-Risks-Policy.pdf>

そのため、この分野におけるアクサ IM のポリシーは非常に厳格です。アクサ IM のコミットメントの一つは、2030年までに OECD 諸国における石炭投資から撤退することです（その他の国々では2040年までに撤退）。2023年にはこのコミットメントがさらに強化され、新たな石炭採掘や発電プロジェクトを行う企業への投資を禁止するよう気候変動リスクポリシーを拡充しました<sup>2</sup>。

世界大手の実物資産運用会社として、アクサ IM の投資判断は環境に大きな影響を与える可能性があります。

建物は温室効果ガス排出量の39%を占めているので、アクサ IM にとってこの部分の数字を下げることは重要です。

それを受け、アクサ IM は具体的な進捗状況を測定し、提示することができる二つの野心的な目標を掲げました。

アクサ IM の影響力のあるスチュワードシップ活動は拡大を続けており、気候変動、生物多様性の喪失、社会的要因へのエンゲージメントは、取締役会や年次総会での投票において重要な議題となっています。

また、企業として、脱炭素化の過程で自らの役割を果たすことも不可欠です。アクサ IM は2年連続でスコープ1、2、3の自社の排出量を公表していますが、これらの排出量を含めることは現在企業に期待されているよりもさらに踏み込んだ内容となっています。

アクサ IM の従業員は持続可能性への取り組みにおいて重要な一部であり、従業員が積極的に取り組むためには意識の向上が重要であるため、すべての従業員に ESG 開発目標を展開しています。

また、アクサ IM のネットゼロ目標を達成するために、上級職の繰延報酬に ESG 目標を盛り込んでいます。

将来を見据え、アクサ IM の存在意義（パーパス）である「すべての人々のより良い未来のために、大切なものに投資する」は、私たちの意思決定における強力な指針です。

アクサ IM の信念は揺るぎなく、アクサ IM は成長を加速させ、市場環境に適応し、お客様に革新とパフォーマンスを提供し続けなければなりません。

しかし、アクサ IM、そして私たちの業界は、優先課題の着実な進歩を維持する必要があります、アクサ IM はその変化の最前線にあり続けます。



04

進捗報告

05

脱炭素化を重視

09

建築環境の  
脱炭素化

13

意識的な  
資本の投下

18

透明性の推進



20

次段階の  
エンゲージメント

23

企業として**地球に**やさしい歩み、  
責任ある組織としての私たちの行動

34

共に  
さらに前進する





# 進捗報告

## アクサ IM プログレスモニター

アクサ IM は数年前から、年次で発行する TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）レポートとスチュワードシップ・レポートの中で、投資ポートフォリオと事業全体にわたる先進的な指標を報告し、公表しています。

アクサ IM プログレスモニターは、これらの主な指標の一部に焦点を当て、2050 年までにネットゼロの会社および投資家になるという目標に対する進捗状況をよりシンプルで透明性のある視点で提供します。中間目標を設定した 8 つの指標で構成されており、この指標は目標達成に向けた戦略的重要性と実質的な貢献度を考慮して選定されています。関連する場合には、本報告書でそれらを取り上げ、気候変動との闘いと生物多様性の支援に対するアクサ IM の多大な貢献を示しています。

### プログレス モニター

“

アクサ IM は、明確で簡潔な追加の財務指標を年次で提供することを目指しています。報告を始めて一年目にして着実な進展を遂げたことを誇りに思います。関連するデータの報告および適切なツールを使用しての報告を継続するため、アクサ IM はアクサ IM の方法論や目標を引き続き進化させなければならないことを認識しています。

”

#### 重要事項：

気候または持続可能性に関連する指標およびその基となる排出量データは、それらの測定に使用される手法および性質固有の限界から生じる測定上の不確実性による影響を受けます。関連データの入手可能性は限られています。それらのデータは発行体によって体系的に開示されていない、もしくは発行体によって開示された、または第三者データ提供者から収集された場合でも、不正確、不完全、または異なる報告方法がとられている可能性があります。データソースと方法論は、時間の経過とともに進化し、改善されることが期待され、目標および目標の達成に重大な影響を及ぼす可能性があります。上記の目標は、経営陣の現在の予想を反映したものであり、アクサ IM が投資している発行体、サプライヤーおよびその他の第三者の行動、ならびにアクサ IM の管理の及ばない様々な政治、経済、規制、市民社会および科学の発展を含む、多くの仮定、変数および不確実性に左右されます。アクサ IM の目標および移行のためのあらゆるスケジュールが、全体的にまたは部分的に達成されるという保証はありません。

#### ジル・モエック

アクサグループ・チーフエコノミスト  
兼アクサ IM 英国 リサーチ・ヘッド



アクサ IM の進捗状況の詳細については、  
双方向型の**プログレスモニター（英文）**をご参照ください。



# 脱炭素化を 重視

## アクサ IM のネットゼロへのコミットメント

アクサ IM は、2050 年までにネットゼロを達成することにコミットしています。2022 年末現在、ジョイントベンチャーを除き、運用残高 (AUM) 総額の 65% (5,410 億ユーロに相当) は、ネットゼロの経路に沿って運用されています<sup>3</sup>。

本章では、アクサ IM が企業ポートフォリオ (債券・株式) および不動産ポートフォリオの脱炭素化を目指している方法について概説します。

<sup>3</sup> 2022 年末現在、アクサ IM の AUM は 5,410 億ユーロであり、パリ協定に沿ったネットゼロ経路に従って運用されています。この目標では上場企業の 100% (上場不動産およびソブリン・エクスポージャーを含む) を対象とします。不動産エクイティの AUM の約 75% に相当し、すなわちアクサ IM オルツが直接的なレバレッジを有し、資産レベルで気候アクションを推進することができるすべての不動産エクイティ資産を含みます。現段階では、インフラ・デットとエクイティ、商業用不動産 (CRE) デット、オルタナティブ・クレジット、自然資本資産、インバクト資産およびその他の資産クラス (例: デリバティブ) は対象外です。



## 脱炭素化を重視



### 炭素集約度の削減

炭素集約度<sup>5</sup>は、企業が生み出す収益 100 万ドルあたりの CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量の指標です。アクサ IM は、2025 年までに企業ポートフォリオの炭素集約度を 25% 削減することにコミットしています。

この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、[双方向型のプログレスモニター（英文）](#)をご参照ください。



<sup>5</sup> アクサ IM は、保有するすべての企業の収益に対する炭素集約度の加重平均を算出しています（アクサ IM コアのスコープのみ）。この測定は、投資先企業からのスコープ 1 および 2 の炭素排出量を対象としています。スコープ 3 排出量は、この分野のデータの質が向上していくうえで統合される予定です。

“

この指標は、企業の生産プロセスのパフォーマンスを GHG（温室効果ガス）排出量の観点から測定するもので、規模やセクターに関係なく企業間の炭素排出量を比較し、排出量の多いセクターと少ないセクターを区別するのに役立ちます。

”

**ベンジャミン・ジャコット**  
アクサ IM パリ クオンツ・ラボ  
責任投資ソリューション・  
ヘッド

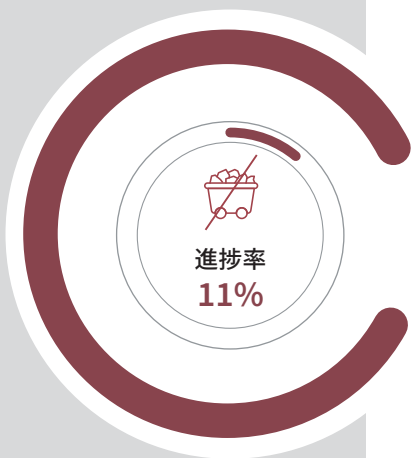


### 企業ポートフォリオの炭素集約度

目標は 2025 年までに  
対 2019 年比で 25% の削減

アクサ IM の  
企業ポートフォリオの  
炭素集約度は  
2022 年末までに  
**28.7%**  
減少しました。  
これは 2025 年の  
目標を上回ったことを  
意味します<sup>4</sup>。

<sup>4</sup> ポートフォリオの変動の結果として目標に沿った、または目標に近い状態を維持することは、積極的な管理、方針および除外を通じて達成されます。



## 脱炭素化を重視



### 石炭からの撤退

アクサ IM は一般炭産業へのすべての投資を 2040 年までに段階的に廃止し、経済協力開発機構 (OECD) 加盟国では 2030 年までに廃止を達成することを中間目標としています。アクサ IM は、石炭エクスポートの限界基準を定義するために厳格なアプローチを採用しており、石炭活動に起因する収益のわずか 1 ドルでも石炭エクスポートの指標とみなしています。

この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、双方向型の[プログレスモニター \(英文\)](#) をご参照ください。

### アクサ IM がこの進展を加速させる方法

2023 年 4 月に、新たな石炭採掘や発電プロジェクト、拡張計画を持つ企業への投資を禁止する、より厳格な方針と基準が導入されました。また、収益の 15% 以上を一般炭の採掘と発電から得ている企業も除外しました。これまでの 30%

からの基準の引き下げで、OECD 加盟国では 2026 年に 10% まで引き下げられます。

[アクサ IM の除外ポリシー \(英文\) はこちら](#)



<sup>6</sup> 企業資産への直接投資は、アクサ IM が運用するすべての該当商品における上場企業への全投資 (直接不動産やインフラ資産などのオルタナティブ資産、担保付ローン債務 (CLO)、保険関連証券 (ILS)、資産担保証券 (ABS)、または住宅ローンなどのその他のオルタナティブ・クレジットは除く) およびリックスルーではないもの (すなわち、アクサ IM が管理しているファンドの一部で他の資産運用会社が運用するファンド内の上場企業への投資は除外) です。

この進展の結果は、2019 年から 2022 年の間の石炭収益に関して、アクサ IM のデータ・プロバイダから入手する、発行体の対象が増加したことにより軽減されています。ベースラインの設定が過小評価されている可能性が高いでしょう。さらに、現在のマクロ経済および地政学的状況は、2022 年のエネルギー・セクターのアウトパフォームにつながっており、現在の進展に対する大きな足かせの一つとなっています。最近、気候変動リスクポリシーが強化されているにもかかわらず、この状況は 2023 年にはさらに顕著になる可能性があります。



アクサ IM パリ 責任投資コーディネーターアナリストの **ジュリー・カヴェニャック** が、石炭からの撤退における除外ポリシー、エンゲージメント活動、より広範な方針枠組みの役割について説明します。

石炭からの撤退  
対 2019 年比で 2030 年までに  
OECD 諸国で 0% という目標

2022 年末時点で  
**0.247%**

のエクスポート<sup>(6)</sup> が  
報告されており、2030 年  
までに (OECD では)  
完全に撤退するという

目標のほぼ  
**11.5%**

となっています。



# 脱炭素化を重視



## ケーススタディ

“

### 炭素エクスポージャー

アクサ IM が投資している先には、アクサ IM の除外ポリシーには該当しない、石炭発電から収益を上げている企業も引き続き存在します。アクサ IM は OECD 諸国では 2030 年までに石炭から撤退することを目指しているため、アクサ IM のポートフォリオになぜ依然としてこれらの企業が含まれるのか疑問に思う方もいるのではないのでしょうか。例えば、**エネル**はイタリアに拠点を置く大手の総合電力会社です。同社の目標は、2040 年までにネットゼロを達成し、石炭と天然ガスから完全に撤退し、100% 再生可能エネルギーを使用する企業になることです。アクサ IM は、エネルは現在この目標を達成する軌道に乗っていると考えています。同社は 2027 年までの脱石炭にコミットしており、現在、同社の電力生産のうち石炭火力発電が占める割合は 8% 未満で、風力発電と太陽光発電の発電能力を既に倍増させています。また、アクサ IM は米国最大の電力会社の一社であるフロリダに拠点を置く**ネクステラ**にも投資しています。同社は 2045 年までにネットゼロの発電事業者になることにコミットしており、化石燃料発電所の所有を終了する計画があります。また、2028 年までの脱石炭にコミットし、フロリダ州ではすでにそれを実行しています。現在、同社の発電で石炭火力発電が占めるのは 2% 未満です。

このように、現在は石炭を引き続き使用しているかもしれない企業でも、ネットゼロの達成に向けて明確かつ確実な移行計画を有する企業に投資することには価値があります。また、石炭による生産量を代替するには、多大な風力や太陽光が必要になるため、石炭を燃料とする工場を単に閉鎖することも容易ではありません。したがって、生産量を維持し、需要を満たしつつ石炭を代替するためには、企業には長期的な計画が必要となります。さらに、こうした企業は大規模な雇用を提供しているため、社会的な課題もあります。したがって、石炭から再生可能エネルギーへの移行は容易ではないものの、移行は実行可能であり、アクサ IM がこれらの企業に投資することにより、こうした企業に変化する機会を提供しているのです。

### オリビエ・ユーージェン

アクサ IM パリ  
気候リサーチ・  
ヘッド

”



### 石炭以外の脱炭素化



2022 年 2 月、**アクサ IM は気候変動リスクポリシー<sup>7</sup>を更新しました。**アクサ IM が除外ポリシーを適用する際

に順守する基準項目の詳細を以下に示します。

- 石油およびガスの生産の 10% 超を北極圏から調達している。
- 石油およびガスの生産の 30% 超を水圧破砕法で調達している。
- 世界のオイルサンドの生産の 5% 超を生産している。

<sup>7</sup> [アクサ IM 気候変動リスクポリシー \(英文\)](#)

「気候変動リスクポリシーは 2023 年 4 月に再度更新され<sup>7</sup>、一般炭やオイルサンドの生産に積極的な企業の除外基準を強化しました」

掲載されている企業は、あくまで例示を目的としたものであり、個別銘柄を推奨するものではありません





# 建築環境の 脱炭素化

---

不動産は世界の温室効果ガス（GHG）排出量の 39% を占めており、不動産資産において 899 億ユーロの運用資産残高を有するアクサ IM は世界最大級の不動産運用会社です。この分野で脱炭素化を加速するため、二つの野心的な目標を設定しました。不動産資産の 50% は炭素リスク不動産モニター（CRREM）の軌道との整合性を維持することと、2025 年までに家主の運営上の炭素集約度を 20% 削減することです。



CRREM に沿った  
不動産 AUM  
目標は 2025 年までに 50% の削減

AUM の  
**50%**  
は CRREM の軌道に  
沿って維持<sup>8</sup>

## 建築環境の脱炭素化



### CRREM との整合

アクサ IM の目標は、2025 年までに直接不動産の AUM の 50% を CRREM の軌道に沿ったものに維持することです。炭素リスク不動産モニター (CRREM) は、世界の気温上昇を 2°C までに減らし、最終的な目標は 1.5°C とするというパリ協定の気候目標に沿った明確かつ科学に基づいた脱炭素化ルートを提供することにより、投資家が気候変動に関連する不動産セクターのリスクを評価し、管理できるように支援します。進捗とは、CRREM の軌道が年々野心的になり、軌道に沿わせることが難しくなることを認識し、ポートフォリオの回転率を考慮して、2025 年までに AUM の一定割合 (50%) を CRREM の経路に合わせることに定義します。

この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、双方向型の **プログレスモニター (英文)** をご参照ください。

2023 年第 2 四半期に CRREM の手法が変更され、アクサ IM のモデルの改良が必要となったため、アクサ IM は参照モデルポートフォリオ<sup>9</sup> について 2021 年および 2022 年の数値を報告します。このモデルポ

ートフォリオは対象資産の約 19% を占めており、ポートフォリオの 50% を超える部分でパフォーマンスが 2025 年に期待される基準に引き続き整合しています。

#### ケーススタディ

「CRREM の軌道は、私たちが不動産の脱炭素化について、お客様や規制当局が容易に把握できる明確かつ世界的に一貫性のある形で測定することを可能にします。建物の持続性をこの水準で維持することは、期待されるパフォーマンス目標との整合を維持し続けるために、照明、暖房、太陽光発電などの新しい、またはより効率的なシステムや構成要素への投資が必要になる可能性を意味します。これらの目標は時間の経過とともにさらに難しくなります。社会がグローバル目標を下回ると、軌道はより急勾配になります。アクサ IM は不動産資産を積極的に運用、売買しているため、この分野におけるアクサ IM のパフォーマンスは非

常に大きく変動します。例えば、パフォーマンスの低い資産を購入して改修を行い、パフォーマンスの高い資産を売却することがあります。これは、ポートフォリオが CRREM とどの程度整合しているかに影響します。基本的な数字は必ずしもすべてを物語っているわけではありません。改善が必要な資産を購入し、そこに投資してから売却することには価値があります」

#### ジュリエット・ルフェビュール

アクサ IM オルツ  
責任投資デピュティ・ヘッド

“

CRREM はさまざまな国の建物タイプについて炭素関連の予算を設定するツールです。CRREM に整合する AUM は、アクサ IM の運用資産残高のうち 1.5°C の経路に沿っている資産の割合を指します。

”

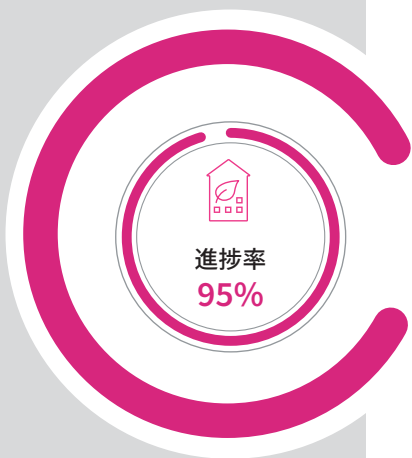
#### ローラン・ラヴェルニュ

アクサ IM オルツ  
サステナビリティ担当  
グローバル・ヘッド



<sup>9</sup> 参照モデルポートフォリオの価値は、対象資産のうちの約 90 億ユーロ (約 19%) です。

<sup>8</sup> 2021 年末現在、利用可能なデータおよびモデルポートフォリオに基づくアクサ IM の合理的な仮定に基づきます。目標は、2022 年版の CRREM の炭素削減経路に対する設定です。CRREM の手法は時間の経過と共に進化する可能性があります。



不動産の炭素集約度  
目標は 2025 年までに  
対 2019 年比で 20% の削減

2022 年末時点で、  
アクサ IM は直接不動産  
AUM の炭素集約度を  
**19%**  
削減しており、  
2025 年の目標に向けて  
**95%** の進展を  
表しています。

## 建築環境の脱炭素化



### 不動産の炭素集約度の削減

アクサ IM は、約 640 億ユーロの直接管理された不動産エクイティ AUM について、貸主の運営上の炭素集約度を 2025 年までに削減（対 2019 年比）することにコミットしています<sup>10</sup>。この目標は、世界有数の不動産運用者として脱炭素化に重要な貢献をする機会をアクサ IM に与えるものです。

この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、双方向型の**プログレスモニター（英文）**をご参照ください。



ポッドキャスト

ポッドキャストの Sound Progress で、アクサ IM チームが  
**ナイジェル・トッピング氏**と不動産における透明性と開示の重要性について話しています（英語）。



<sup>10</sup> 不動産の炭素集約度は、貸主が建物を運営するために使用するエネルギーから生じるスコープ 1 とスコープ 2 両方の GHG 排出量を関連する面積の平方メートルあたりの比率として示すものです。これは、「貸主が管理する」排出であり、建物内のエネルギー契約の所有者がアクサ IM である場合に特有のものです。



### ジュリエット・ルフェビュール

アクサ IM オルツの責任投資の副責任者が、この目標を達成するためにアクサ IM の不動産チームが直面する三つの主要な課題について述べています（英語）。



## 建築環境の脱炭素化



### ケーススタディ

“



テリは、スイスのアールウ郊外にある特徴的な集合住宅地です。この集合住宅には 1,000 名を超える人が暮らしているため、入居者が継続して生活し、働くなかで 581 戸の住宅を改修することは簡単ではありません。

炭素排出量を削減するため、アクサ IM は建物の保護された特徴であるファサードと暖房の二つを重視しました。すべての窓を最新の 3 枚ガラスに交換し、屋根とファサードの断熱性を高め、古いガス暖房システムを近くの下水処理場から

の地域暖房に置き換え、屋根に太陽光発電システムを設置しました。また、電気接続の改善により 46% の省エネを実現しました。

工事中は可能な限りサーキュラーエコノミーの基準を採用しました。例えば、古いバルコニーを解体して、セメントと砂を作るためにリサイクルし、その後、新しいバルコニーを作るために活用しました。

テナントにとっても、ウィンーウィンの関係です。居住者は現在、以前よりも快適に暮らすことができ、コスト削減の恩恵も受けています。新しい建物はスイスの「持続可能な建築基準 (SNBS)」でシルバーに認定されたばかりで、現在はネットゼロであり、年間 1,000 トンの CO2 排出を削減しています。テリでは、未来を共に創っています。

”

詳細については、  
➤ [アクサ IM オルツのウェブサイト](#)  
をご覧ください (英語)。

**マヌエラ・グネーム**  
アクサ IM オルツ  
リアルアセット アセットマネージャー



## さらなる 歩み

● **グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマークはどのように投資家を支援するのでしょうか？**

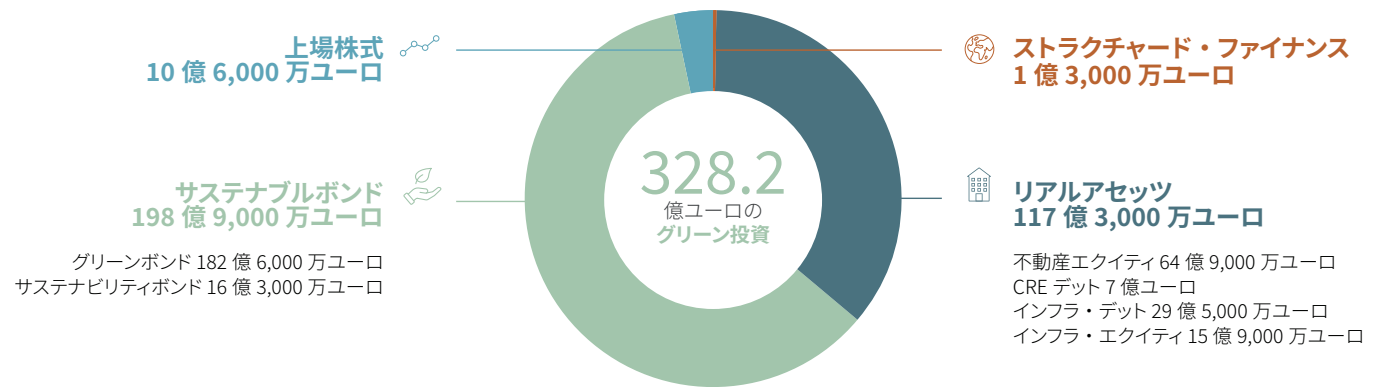
● グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク (GRESB) は、世界中の不動産ポートフォリオの ESG パフォーマンスを評価し、各事業体に GRESB スコアと格付けを付与して投資判断を支援するものです。

● オルタナティブ投資の世界的リーダーであるアクサ IM オルツの事業では、2011 年からこの評価を活用しており、2022 年には平均を上回る対象資産を GRESB に提出し、資産運用残高は同業者が平均 33 億ドルだったのに対し、336 億ドルとなりました。

● さらに、2022 年末までに、対象となる不動産の AUM の 67% が ENERGY STAR、LEED、BREEAM などのスキームによって認証され、2021 年と比較して追加的に 35 億ユーロの不動産資産が認証を獲得しています。



# 意識的な 資本の振り分け



お客様の投資目的に合致する場合には、意識的にグリーン投資に資金を振り向けることが、資産運用会社が移行を支援するもう一つの方法です。アクサ IM のグリーン投資は、2021 年の 350 億ユーロに対し、2022 年には 328 億 2,000 万ユーロとなりました。

出所:アクサ IM、2022 年 12 月 30 日現在。注:上場株式の数値は、アクサ IM が運用する 4 つの「グリーン」オープンエンド型株式ファンド資産で構成されています。ストラクチャード・ファイナンス (すなわち、オルタナティブ・クレジット、自然資本およびインパクト) の数値は、アクサ IM が管理する専用ファンドの資産で構成されています。グリーンボンド、サステナビリティボンドおよびリアルアセットの数値は、アクサ IM が投資を保有する金融商品の法的形態に関わらず、アクサ IM が運用する資産によって資金提供されるすべての金融証券を含んでいます。



## 意識的な資本の振り分け



### リアルアセット

不動産とグリーン・インフラストラクチャがグリーン投資の大部分を占め、2022年には117億3,000万ユーロに達しました。

例えば、アクサ IM オルツがロンドン市内に開発した62階建ての超高層ビルは、EPCでA+の評価を受け、BREEAMの「Excellent」認定、WiredScoreのプラチナ評価を取得しています。

アクサ IM の森林資産は認証を取得しており、持続可能な方法で管理されています。例えば、アクサ IM オルツが取得したオーストラリアのグリーントライアングル地区にある24,800ヘクタールの森林は、PEFCの認証を受けており、2022年には40万t CO2e以上の吸収を行っています。



### ケーススタディ

2022年3月には、世界最大の洋上風力発電所であるホーンシー2の株式の25%を取得し、グリーンインフラへの投資を継続しました。英国のヨークシャー沖に位置するこの施設は、2022年8月にフル稼働が開始した後、設備容量は1,386MWに達しました。

アクサ IM は2023年に、イベリアの再生可能エネルギーのプラットフォームであるフィナーズの株式25%を取得する契約を締結しており、ホーンシー2と合わせると、投資の総稼働容量は約3.3GW2、インフラ資本のAUMは75億ユーロ（2023年6月末現在）となります。



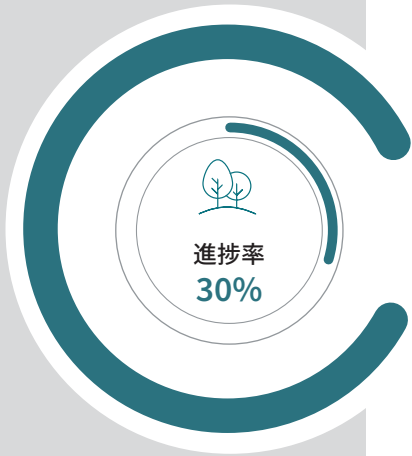
気候変動は今世紀の重大な課題であり、未来の中心的リスクです。アクサ IM はフィナーズのような統合された独立系再生可能エネルギー発電事業者は、21世紀の電力事業者として規模を拡大する能力を有しており、エネルギー移行を実現するために不可欠であると考えています。



### ジュリアン・ガイエトン

アクサ IM オルツ  
インフラストラクチャ、デピュティ・ヘッド

掲載されている企業は、あくまで例示を目的としたものであり、個別銘柄を推奨するものではありません



### 自然資本ソリューション

目標は2028年までに5億ドルのコミットメント

2022年12月末現在、2022年の自然資本戦略には

**1億5,000万ドル**

がコミットされており、これは進捗率

**30%**

に相当します。

## 意識的な資本の振り分け



### 自然資本ソリューション

2022年には、生物多様性を保護し、気候変動に対処するための自然資本戦略が開始されました。自然資本ソリューションは、植林、森林保全、持続可能な森林管理、農業の改善、湿地の回復や保全など、さまざまな活動を支援するために資本を投入することにコミットしています。こうした方法で、森林減少と土地劣化によって引き起こされる GHG 排出量の 20% に対応することを支援します<sup>11</sup>。

2028年までに自然資本ソリューションに5億ドルをコミットする目標が設定されています。

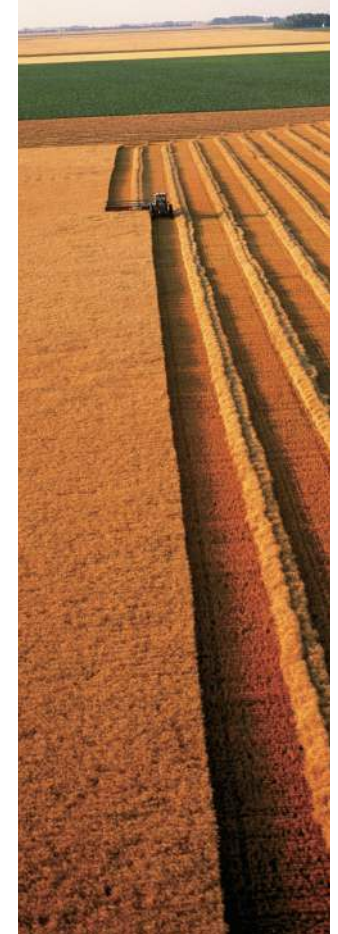
この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、双方向型の**プログレスモニター（英文）**をご参照ください。



ポッドキャスト



ポッドキャストの Sound Progress で、アクサ IM オルツの自然資本の責任者である**アダム・ギボン**とアクサ IM コアの CIO である**クリス・アイゴー**が沿岸地域における自然資本の投資機会の役割について討議しています（英語）。



<sup>11</sup> <https://climatefundsupdate.org/wp-content/uploads/2020/03/CF5-2019-ENG-DIGITAL.pdf>



## 意識的な資本の振り分け



### 持続可能な戦略と ACT ファンドの範囲

2022 年末までに、アクサ IM の AUM のうち 410 億ユーロが持続可能戦略および ACT 戦略に投資されています。ACT ファンドの範囲は、お客様の気候変動などの問題に関連する特定の ESG 目標の達成を支援するように設計されています。これらの戦略の一部を以下に記載します。

▶ **炭素移行（債券）**：加重平均炭素集約度をファンド・マネージャーの炭素排出ベンチマークより低く維持することを目指します。

▶ **低炭素（債券）**：金属、鉱業、鉄鋼生産者などの最も炭素集約度の高いセクターと、エネルギーおよび公益事業セクターの大半のサブセクターを除外します。炭素集約度および水集約度で少なくとも 30% の削減を目指します。

▶ **グリーンボンド（債券）**：スマートエネルギー、グリーンビルディング、低炭素輸送、持続可能な生態系の分野において環境に実質的な利益をもたらすグリーンボンド・プロジェクトのみに投資します。

▶ **生物多様性（株式）**：土地、水、空気の命を守る企業の数十年にわたる成長機会への多様なアクセスを提供します。

▶ **カーボンオフセット（株式）**：製品やサービスを通じて低炭素経済への移行を支援する企業へ大規模なエクスポージャーを提供します。



### グリーンボンド

グリーン投資の大半を占めているのはグリーンボンドです。2022 年、アクサ IM はグリーンボンドの保有額を前年比で 22.8% 増加させ、総額を 183 億ユーロに引き上げました。

独自のグリーンボンド評価の枠組みを開発しています。この枠組みはグローバル・サステナビリティ・スタンダード・ボード（GSSB）の発行物に対して、責任投資リサーチチームによる定性的な評価およびブルームバーグのデータベースに基づき、精度を高めた ESG スコアを作成します。このアプローチは厳格であり、2014 年以降、この枠組みにより、当初グリーン、社会的、または持続可能として提示された債券の 5 分の 1 が除外されています。また、サステナビリティボンドにも 16 億ユーロを投資しました。これらの債券は同じ枠組みの対象として扱われ、最も関連性が高く影響力のあるプロジェクトへのみ融資がされるよう保証されています。





# 意識的な資本の振り分け



## 移行を支援するために アクサ IM 自らの資本を投資



## 学術研究を通じた 気候問題への取り組み

イノベーションは、気候変動に対応し適応するための重要な答えの一つです。

公正でグリーンな移行に関する変革的な研究を認識するために、2021 年に**アクサ IM リサーチアワード**が創設されました。

2022 年度には、英プリマス海洋研究所のアナ・ケイロス教授がアワード受賞者として発表されました。



ポッドキャスト



昨年の受賞者、**アナ・ケイロス**教授が自身の研究について語っています（英語）。

気候変動に適応し、炭素吸収源として機能する生態系の能力を高める海洋管理戦略を研究するブルーカーボンに関するケイロス教授の研究に対して 10 万ユーロが授与されました。

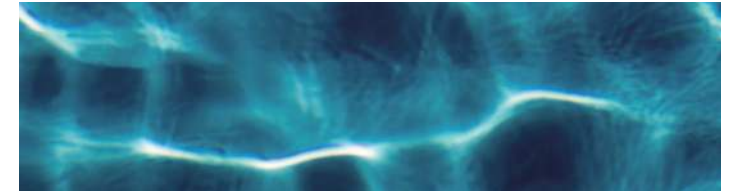
アクサ IM は 3 月に**パリ経済学校 (PSE)**と協力し、「エネルギー移行を成功させるため」の新しい研究職を設置しました。

同職は、特にグリーン投資におけるクライメート・ポリシーの影響について、エネルギー移行のコストに関する規模の理解を深めることに重点をおいています。

## 生物多様性データ

アクサ IM は 2021 年にアイスバーグ・データラボ (IDL) および I Care & Consult が 5 百万ユーロを調達したシリーズ A の資金調達に参加して、両社に投資しました。

IDL と協力して、ポートフォリオが生物多様性の喪失に及ぼす影響を特定することを目指し、企業レベル、セクターレベル、ポートフォリオの総合レベルで生物多様性のフットプリント（負荷）を算出します。2022 年には、報告目的のためのファンドの生物多様性フットプリントが公表され、IDL は 2023 年には、投資チームがこの指標を使用できるようにするための研修を提供する予定です。



## 今後について

- 今年後半には、アクサグループとローマのルイスガイドカルリ大学とのパートナーシップが発表され、気候変動に関する政治、哲学、経済をテーマとする新しい研究職に資金を提供します。
- 同職は、気候政策の社会的影響と、低炭素社会への移行を最適化するために気候政策を適応させる方法を研究します。



# 透明性の 推進

---

環境への投資の効果を測定することは、有意義な進歩を遂げるために非常に重要です。より明確な測定値を提供するためにデータの精度を向上させ、結果が透明性をもって報告されるようにすることが鍵となります。それが ESG スコア、予想気温上昇、生物多様性フットプリントのいずれであっても、資産運用会社から NGO、業界関係者に至るまで、持続可能性の生態系におけるすべての人にとっての優先事項です。



## 透明性の推進

### 生物多様性の測定

健全な気候と強固な生態系は、どちらも人間の生存の前提条件です。したがって、生物多様性の喪失への対応は、GHG 排出量を削減する野心的な目標と並行して行われなければなりません。

2022 年には、投資家や企業が自然に与える影響の評価を支援するために立ち上げられた科学的根拠に基づくターゲット・ネットワーク (SBTN) などの産業界のイニシアチブとともに、世界生物多様性枠組が採択されました。

アクサ IM は、アイスバーグ・データラボが設計した生物多様性フットプリントという新しい指標を使用して、大規模な生物多様性フットプリントを有する企業の選定および優先順位付けに役立て、それに応じてエンゲージメントの取り組みに焦点を当てました。

> TCFDレポート(英文)

アクサ IM の投資が環境に与える影響を測定する方法については、**TCFD レポート(英文)** のセクション 6.5 でご確認ください。

<sup>12</sup> [https://finance.ec.europa.eu/sustainable-finance/disclosures/sustainability-related-disclosure-financial-services-sector\\_en](https://finance.ec.europa.eu/sustainable-finance/disclosures/sustainability-related-disclosure-financial-services-sector_en)

<sup>13</sup> <https://www.axa-im.com/document/5860/view>

### 温暖化に与える影響

2022 年、投資が地球温暖化に与える影響について測定する革新的かつ将来を見据えた指標がいくつか検討されました。この方法論を用いると、ソブリン投資は **2020 年と比較して 0.4°C 低下しています。(2022 年現在は 1.94%)**

それ以降、運用チームは社債や上場株式への投資が世界の気温目標とどの程度整合しているかを評価するため、MSCI 推定気温上昇 (ITR) モデルを採用しています。そのため、資産クラスの前年同期比での比較はできません。

ITR モデルは、経済全体が炭素収支を上回るか下回る場合の 2100 年までの地球の気温上昇を推定します。2022 年、上場株式と社債の推定気温上昇はそれぞれ 2.36°C と 2.28°C でした。

## ESG の測定

**ESG 測定を統合することは引き続き重要な優先課題です。**

アクサ IM オルツは、グローバル ESG スコアに対する各資産クラスの寄与度をまとめた ESG 評価手法を作成しました。この新しい方法論のもと、アクサ IM は 2022 年末までにオルタナティブ資産クラスのすべての取引を 100% 網羅することを成し遂げました。

可能な限り最良の ESG 第三者データに基づいて、持続可能なファンドおよび ACT ファンドとされるポートフォリオ向けに、業界で標準化された ESG レポートが展開されました。この報告書では、生物多様性、気候、カーボンインパクトに加え、議決権に関するエンゲージメントの評価も行います。



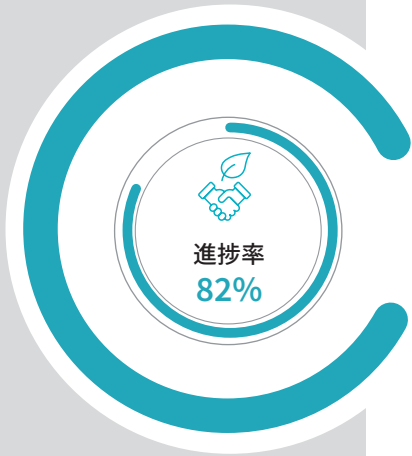
### EU サステナブル・ファイナンス開示規則 (SFDR)

2022 年、欧州委員会は SFDR<sup>12</sup> レベル 2 を採択し、業界全体で新しい定義に合わせて戦略を再分類することが求められました。透明性を確保するため、アクサ IM は SFDR 第 9 条の金融商品のもとで、発行体を持続可能である (適格資産の 100% を持続可能な投資に運用している商品) と認めるために用いた手法<sup>13</sup> を開示しました。「実質的な貢献」の基準は、国連の SDG への積極的な貢献、またはパリ協定の目標に沿った脱炭素移行の道筋へのコミットメントという二つの側面に基いています。



# 次段階の エンゲージメント

議決権行使や除外ポリシーを通じて、またエンゲージメントや持続可能性に関する対話を通じて投資先企業の行動に影響を与えることは、ネットゼロへの移行における重要な要素です。投資家エンゲージメントは、投資家が特定の目的を念頭に置いて投資先企業の慣行を改善しようとする変革プロセスと考えられています。気候問題へのエンゲージメント活動は、アクサ IM の保有が最大である銘柄に限定されるものではなく、排出量が最大のポートフォリオ企業にも適用されます。



積極的な外部との  
エンゲージメント  
目標は2025年までに70%

2022 年末現在で、  
融資排出量の  
**57.4%**で  
エンゲージメントを  
実施しており、  
アクサ IM の目標に  
対する進捗率は  
**82%**  
となっています。

## 次段階のエンゲージメント

### 積極的な外部とのエンゲージメント

アクサ IM は、2025 年までに融資排出量\*のエンゲージメント対象を 70% とすることを目標として設定しています。

### 進捗とは？

2022 年は、「3 ストライク、アウト」ポリシーの一環として、明確で信頼できる脱炭素戦略を有さない投資先企業である「クライメート・ラガード（気候変動対応で出遅れている企業）」と積極的

にエンゲージメントを実施した初めての年です。アクサ IM は、Climate Action 100+ イニシアチブなどの協働エンゲージメント・プログラムにも参加しています。

➤ この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、双方向型の[プログレスモニター（英文）](#)をご参照ください。



### 「3 ストライク、アウト」とは？

その中で「クライメート・ラガード」と考えられる企業が明確に改善する必要がある分野を提示し、進展のための時間軸と共にその分野を経営陣に伝えました。責任投資チームおよび関連するポートフォリオ・マネージャーは、移行を支援するために企業と定期的にエンゲージメントを行い、必要に応じて共同申請や決議などのエスカレーション手法を用いて変化を促しています。

3 年以内に目標が達成されない場合、アクサ IM は投資撤退を行います。クライメート・ラガードの一覧は毎年見直しを行い、新たな発行体が追加されます。こうした企業を特定する基準は、時間とともに厳しくなるでしょう。

➤ [アクサIMエンゲージメント・ポリシー（英文）](#)をご参照



この動画では、  
クライメートリサーチ・ヘッドである  
**オリビエ・ユージェン**が  
**気候変動に関するエンゲージメント**へのアクサ IM のアプローチを説明しています（英語）。

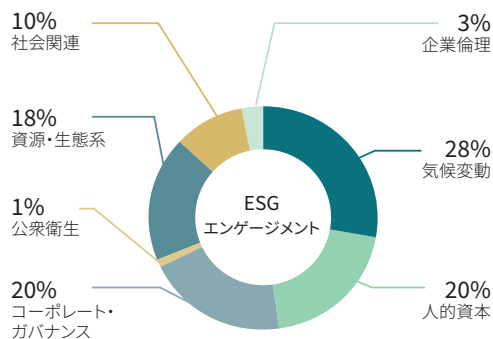
\*: 資金提供した割合に応じた排出量を意味し、金融機関に帰属する投融資先の排出量を表しています。



## 次段階のエンゲージメント

2022年、アクサ IM の CEO が関連企業に対してエンゲージメントを求めた結果、1社を除くすべての企業と最初のミーティングが実施されました。

**アクサ IM の企業とのエンゲージメントでは、ESG の主要テーマを幅広くカバーします。**



気候変動は引き続き最も議論されたテーマであり、すべてのエンゲージメント対話のうちの28%を占めました。生物多様性の喪失に関するテーマも増加し、397回の会合が実施され、全エンゲージメントの18%を占め、2021年の14%から増加しました。アイスバーグ・データラボと協力して設計された新しい生物多様性フットプリント・ツールは、大規模な生物多様性フットプリントを持つ企業を選定するのに役立ち、焦点を絞ったこれらのエンゲージメントの取り組みを可能にしました。森林破壊と生態系保全ポリシーを更新し、アクサ IM が生物多様性のスチュワードシップにどのように取り組むかについて、より詳細な情報を提供しました。



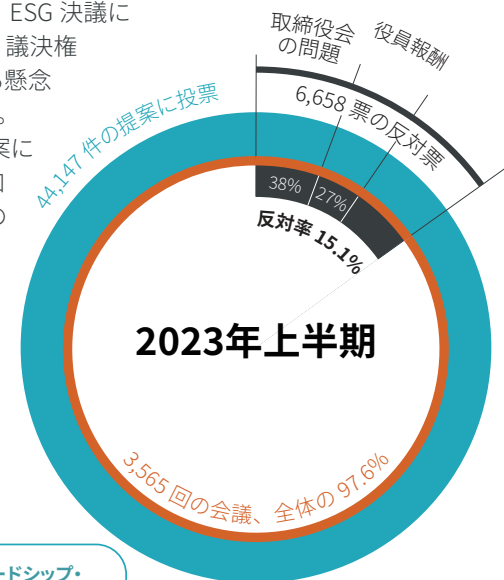
ポッドキャスト

クライメートリサーチ・ヘッドのオリビエ・ユーゼンが、ダブリンを拠点とする建設資材会社の排出量削減計画の開始および導入を大幅に進展させる支援を行うため、アクサ IM がどのようにエンゲージメントを実施したかについて説明します（英語）。

### 戦略的な議決権行使

年次株主総会（AGM）での投票は、投資先企業とのスチュワードシップにおける重要な要素です。株主に与えられた権利として、影響を最大限に及ぼし、投資先企業とのエンゲージメント活動を強化するための重要な手段です。

2023年上半期に反対した主なテーマは、報酬契約の適切性、ESG 決議における意見の相違、議決権行使の役割に関する懸念に関するものでした。同時期に、ESG 提案に反対する件数が増加しており（2022年の25件に対して54件）、ESG 問題への取り組み方に対する精緻さが高まっていることを示しています。



詳細は、[スチュワードシップ・レポート\(英文\)](#)をご覧ください。



# 地球にやさしい行動、 責任ある企業としての 行動

アクサ IM には投資家として、そして企業として気候危機に取り組むうえで果たすべき役割があります。アクサ IM は、投資先企業に求めるものと同様の高い基準を守らなければなりません。これは、低炭素経済への移行を加速するための投資と、2050 年までに企業としてネットゼロになるというコミットメントを実行することを意味します。

アクサ IM は、主要な排出ストリームを対象とした自社の炭素排出量（投資を除く）の測定と削減を目指しており、2025 年までに全体で 26% 削減することを目指しています。この目標を達成するためのグローバル・ポリシーが策定され、アクサ IM の COO と協力して作成された各市場の持続可能性に関する異なるレベルの成熟度を考慮した地域主導のポリシーと併せて導入されています。



アクサ IM の  
カーボンフットプリント  
目標は2025年までに  
対2019年比で26%の削減

2022年12月末現在、  
アクサIMのカーボン  
フットプリントは  
**3,532tCO<sub>2</sub>e**で、  
2025年の目標の  
倍にあたる  
**58.4%**の  
削減となりました。

## 地球にやさしい行動、 責任ある企業としての 行動



プログレスモニターの一環として、アクサ IM は自社の運営におけるカーボンフットプリント削減に向けた進捗状況を追跡します。電力、出張、社用車という三つの主要な排出源全体<sup>15</sup>で2025年までに26%削減する<sup>14</sup>という目標が設定されました。

### 進捗とは？

新型コロナ対策の緩和を受けて出張が増えることが予想されるため、2025年までの削減を維持するとともに、他の地域でもさらなる削減を進めることが鍵となります。



<sup>14</sup> 2019年のベースラインである8,493tCO<sub>2</sub>eとの比較

<sup>15</sup> オフィスの所在地は変更となる場合があります。この変更は、組織構造、従業員の動態、オフィスの所在地の変更を含むさまざまな要因によるものです。その結果、排出量の推移や2025年目標に対する進捗状況は、排出削減の取り組みだけでなく、オフィスネットワークの構成の変化にも影響されます。



アクサ IM 英国 クライメートリサーチ・ヘッドである  
**フィオナ・スワロー**が、  
運営上の**炭素排出量の指標**に  
ついての詳細を説明します（英語）。

この目標に対するアクサ IM の進捗状況の  
詳細については、双方向型の**プログレス  
モニター（英文）**をご参照ください。

## さらなる 歩み

### プログレスモニターの指標

移動とエネルギー消費の削減に加えて、アクサ IM は水と紙の消費量の削減も目指しており、建物内の廃棄物管理の改善に焦点を当て、デジタルフットプリントに関連する排出量を削減する方法を検討しています。アクサ IM は、商品やサービスの購入からの排出を含むスコープ 3 排出量の全体を測定することで、業界基準を超える取り組みを行っています。アクサ IM は、サプライヤーやサービスプロバイダーと彼らのネットゼロ・ロードマップについてエンゲージメントを行い、この分野での削減を支援する方法を模索しています。





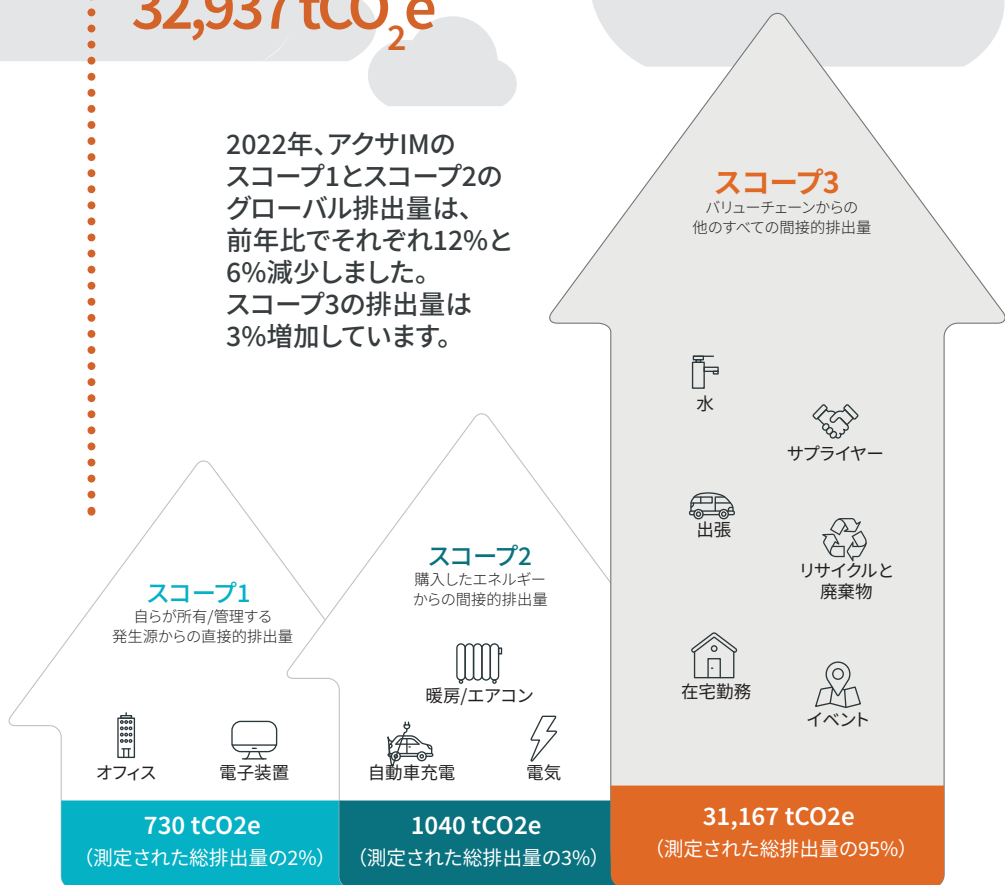
# グローバルに展開

## ① 測定

アクサIMの2022年末の総排出量

# 32,937 tCO<sub>2</sub>e

2022年、アクサIMの  
スコープ1とスコープ2の  
グローバル排出量は、  
前年比でそれぞれ12%と  
6%減少しました。  
スコープ3の排出量は  
3%増加しています。



スコープ3 排出量の増加は、新型コロナによる渡航制限が解除された最初の年である2022年に出張件数が増加したことが一因です。出張件数はパンデミック前のレベルには回復していませんが、お客様との対面でのミーティングは必要不可欠であると認識しています。チームは、デジタルツールの進化や在宅勤務の増加を活用して、重要な出張のみを優先し、アクサIMの当初の目標をさらに削減していきます。また、アクサIMは出張が必要な場合にのみ検討され、最も持続可能な方法で実施されることを徹底するために、出張ポリシーも進化させています。

## さらなる 歩み

2023年1月、欧州委員会による企業サステナビリティ報告指令(CSRD)が施行され、一定規模以上の企業は2024年以降、スコープ3の排出量を報告することが義務付けられました。

アクサIMは2021年からスコープ3排出量の測定と報告を行っています。アクサIMのグローバルな炭素排出量のうち、サプライチェーンの排出量が占める割合は75%であるため、2050年までにネットゼロという目標を達成するためには、これらの排出量への対応が鍵となります。そのため、アクサIMは自分たちのサプライヤーやサービスプロバイダーとエンゲージメントを行い、それぞれの独自のネットゼロ・ロードマップについて協議する計画です。排出量の問題をこれまで考慮してこなかった可能性のある企業において、この問題を優先課題として位置付けていくことに努めます。

2022年のアクサIMオフィスの排出量は、ロケーション基準のアプローチでは32,937tCO<sub>2</sub>e、マーケット基準のアプローチでは32,406tCO<sub>2</sub>eでした。ロケーション基準の方法では、地域の電力網の排出強度に基づきスコープ2の排出量を算出する一方、マーケット基準の方法では再生可能エネルギー証書<sup>16</sup>などの契約を通じて企業が購入する電力に基づいています。

<sup>16</sup> 再生可能エネルギー電力証書は、再生可能エネルギー源によって生産された1メガワット時のエネルギー発電の環境付加価値を表します。

TCFDレポート(英文)

排出量の測定方法の詳細については、TCFD 55 ページをご覧ください。

tCO<sub>2</sub>e: 二酸化炭素1トンを意味する単位であり、様々な種類の温室効果ガスの量を、CO<sub>2</sub>相当量に換算して排出量を示す単位として使用されています。

投資は含まれませんが、ネットゼロ・アセットマネージャーズ・イニシアチブの目標において対象となっています。



# グローバルに展開

## 2 削減

### アクサIMの目標

アクサIMは2021年に自分たちが資源を消費する方法を変えるための野心的な目標を設定しました。

全目標を  
2025年に  
完了



### 電力 - 36%

拠点横断的にCO2e排出量を36%削減し、欧州の全拠点で100%再生可能エネルギーを達成します。

2019  
1,261 tCO<sub>2</sub>e

目標  
807,04 tCO<sub>2</sub>e  
(-36%)



2022  
実績: 497 tCO<sub>2</sub>e



### 出張 - 25%<sup>17</sup>

航空機を使う出張に関する規則の厳格化と排出量の常時監視により、CO2e排出量を25%削減します。

2019  
6,967 tCO<sub>2</sub>e

目標  
5,225 tCO<sub>2</sub>e  
(-25%)



2022  
実績: 2,796 tCO<sub>2</sub>e



### 社用車 - 15%

車両を低排出ガス車両への移行と車両台数の削減により、CO2e排出量を15%削減します。

2019  
265 tCO<sub>2</sub>e

目標  
225,25 tCO<sub>2</sub>e  
(-15%)



2022  
実績: 238.5 tCO<sub>2</sub>e



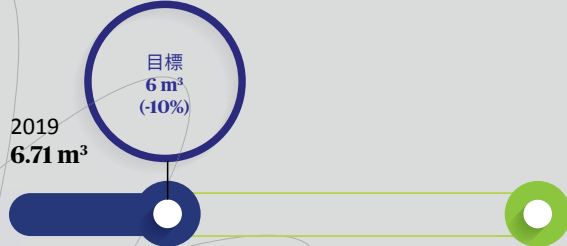
<sup>17</sup> 出張に関して、アクサIMは同じ期間のFTEあたり40%のCO2削減に合意しました



# グローバルに展開

## 2 削減

全目標を  
2025年に  
完了



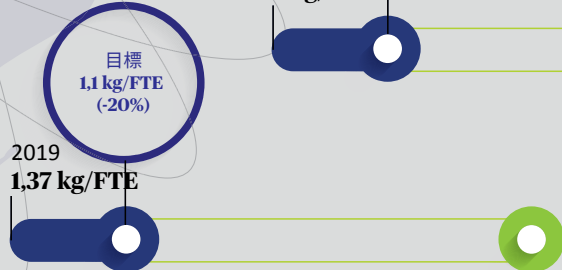
水 - 10%  
オフィスでの水の消費量を10%削減します。



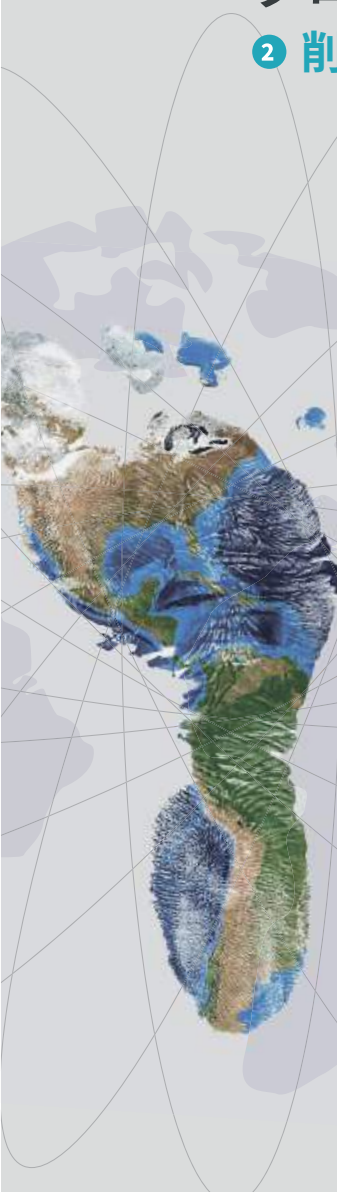
未分別廃棄物 - 10%  
引き続きリサイクル活動を奨励し、使い捨て製品の使用を廃止することで、未分別廃棄物を10%削減します。



紙消費量 - 20%  
オフィス内のプリンター台数の削減、印刷  
ルールの厳格化、および会場ブランディング  
資材の再利用により、紙の消費量を20%  
削減します。



マーケティング資料・分配資料の紙





# グローバルに展開

## 2 削減

### 最高のパートナーとの連携

アクサ IM は、環境への影響を正確に測定し、それに基づいて行動し、気候コミットメントに定められた目標を達成するために、この分野の専門家と提携しています。

▶ 温室効果ガス排出を専門とするデータ主導型企業の **ClimateSeed** は、CO<sub>2</sub>e 排出量を測定する自動化ツールを開発しました。アクサ IM は、報告プロセスを簡素化および強化し、より正確で定期的かつ一貫性のある環境報告を実現するために、このプラットフォームを導入しています。アクサ IM は、ClimateSeed と協力してツールを強化し、要件や業界標準との整合性を確保し、環境トレンドの見通しや予測を行うための予測機能などの革新的な機能を統合しています。

▶ アクサ IM は、環境コンサルタント会社の **ClimatePartner** と協力して、持続可能性ロードマップを構築し、気候変動の優先課題を達成するために必要なツールを開発しています。コンサルタントは、サプライチェーン・エンゲージメント、再生可能エネルギー、炭素排出量の検証、デジタルサステナビリティ、従業員エンゲージメントなどのテーマについて、アクサ IM のチームと協力します。

掲載されている企業は、あくまで例示を目的としたものであり、個別銘柄を推奨するものではありません





# グローバルに展開

## 2 削減

### 新たなグローバル基準の開発

2022年、アクサIMの企業責任チームは、運営上の排出量を世界的にさらに削減するために、二つの新たな基準を発表しました。



アクサIMのサステナブル・イベント・スタンダードでは、イベントに関する以下の基準を提示しています。

- ▶ 持続可能性に関する信頼性の高い第三者提供者の使用
- ▶ バナー、ステージング、招待状などのマーケティング資料の再利用
- ▶ ケータリングはデフォルトで地元調達とし、赤身肉を除外
- ▶ 公共交通機関の選択肢を考慮してイベント会場を選択

アクサIMのコーポレートギフト・スタンダードでは、企業の贈答品に関する次のガイドラインを展開しています。

- ▶ 贈答品を渡すのではなく、慈善団体に寄付
- ▶ グローバル・フィランソロピー・プログラムから選ばれた慈善団体、または地元で選ばれた慈善団体



“

アクサIMにおいてのイベントは、自分たちのサステナビリティに関する野心を具現化し、アクサIMが「有言実行」するだけでなく、環境を支援する取り組みを続け、ネットゼロへの道りを促すためにできるあらゆることを実行する意思があることを示す最も認識されやすい活動の一部です。アクサIMの新しい持続可能性基準は歓迎され、アクサIMが正しい行いをしているのだという確信が得られました。2022年末の業界イベントでは、アクサIMのセールス担当者が会社として名称入りの商品を配ることを廃止し、その資金を地元の慈善団体に寄付することにたと述べ、称賛を浴びました。これはアクサIMが望んでいた最高の反応でした。

”

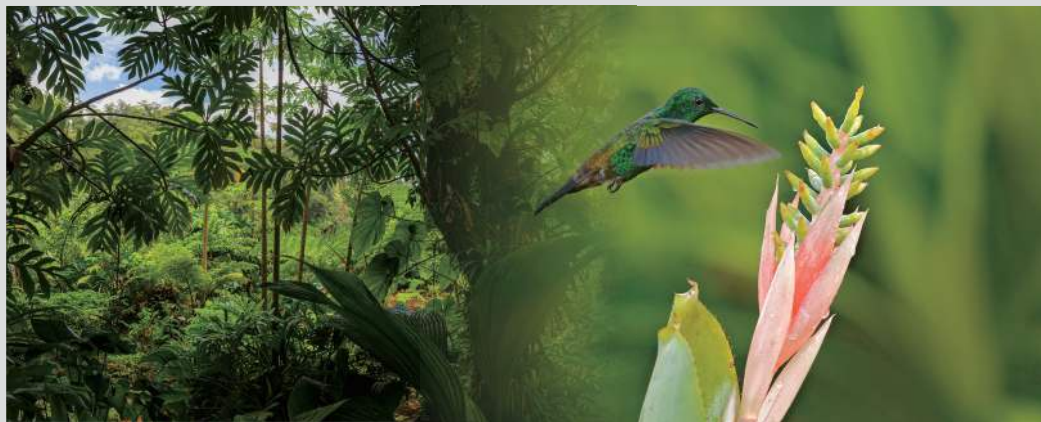
クロエ・ジョーンズ  
アクサIM 英国 コア  
グローバル・イベント・マネージャー





## グローバルに展開

### 3 オフセット



強固な削減目標が設定されていたとしても、アクサ IM が炭素排出を発生させずに事業を行うことは不可能です。カーボンオフセットは主な解決策として考えるべきではありませんが、2050 年までのネットゼロ達成に向けて取り組む際の補完的なツールとして利用することはできます。アクサ IM は、環境の持続可能性へのコミットメントに沿って、2021 年以降行ってきたように

グアテマラ・カリブ海の保全プロジェクトを支援しています。このプロジェクトでは、生物多様性にとって重要な移動通路となる森林を保護します。2022 年には、このプロジェクトによる炭素クレジットで、サービスの購入を除くアクサ IM の運営におけるすべての排出量のうち、8,748tCO<sub>2</sub>e が相殺されました。



tCO<sub>2</sub>e: 二酸化炭素1トンを意味する単位であり、様々な種類の温室効果ガスの量を、CO<sub>2</sub>相当量に換算して排出量を示す単位として使用されています。



#### 還元する

アクサ IM は、インパクト・ファンドから得られる運用報酬の 5% を、ワールドランドトラストやフランス野鳥の会 (Ligue pour la Protection des Oiseaux) などの厳選された慈善団体に分配しています。

**2022 年、ワールドランドトラストはこの資金を以下の目的に使用しました。**

- ▶ ゾウの集団をつなぐインドのデリン - ディプル・サイコワ回廊の保護
- ▶ 500 頭を超える象の移動をサポート
- ▶ 回廊の劣化した部分を修復させるために 6,200 本の苗木の植え付け
- ▶ 種を調査するためのカメラトラップの設置

**フランス野鳥の会はこの資金を以下の目的に使用しました。**

- ▶ フランスのマシフ・セントラル南部におけるハゲワシ 4 種の保護と野生復帰を継続
- ▶ シロエリハゲワシ (繁殖ペア 905 組)、クロハゲワシ (繁殖ペア 28 組)、エジプトハゲワシ (繁殖ペア 2 組)、ヒゲハゲワシ (繁殖ペア 1 組) の定期的監視
- ▶ 2022 年に 59 羽のハゲワシが死亡した鳥インフルエンザウイルスのハゲワシ個体群への影響に関する情報の収集



## グローバルに展開

アクサ IM の事業全体で排出量を削減するためにグローバルな目標を設定することは重要ですが、各地域の成熟度が異なることを認識することも大切です。

アクサ IM は各地域に合わせた CO2 削減ロードマップを作成するため、最大規模の各事業所とその経営チームと協力しています。エネルギー、社用車、出張などの主要な排出量に加え、廃棄物、紙、水に関して、野心的かつ現実的な目標を設定しています。また、各事業所で取り組みの実施状況を定期的に確認しています。

例えば、米国とアジアにおける再生可能エネルギーの割合は依然として限られています。その主な要因としてこれらの地域の電力網の炭素集約度が高いことがあり、供給の確保は容易ではありません。



### ケーススタディ



アクサ IM の香港オフィスは太古坊一座にあり、すでに非常に効率的な建物ですが、環境への影響を改善するためのさらなる努力を行っています。ビル管理会社のスワイヤー・プロパティーズの協力を得て、水の使用量を測定し、また一部の蛇口に流量制限器を設置できることを確認しています。

また、毎日廃棄物の重量を測定して追跡を可能にしており、新聞および雑誌の購読をすべて停止しました。香港ではエアコンは不可欠ですが、エアコンはエネルギーを大量に消費します。アクサ IM は、夏はオフィスの温度を 25°C 以上に設定し、毎日午前 7 時から午前 8 時までは使用を中止しています。バッテリーのリサイクルポイント、プラスチック、紙、アルミのリサイクルボックスを用意し、社内イベントではベジタリアン料理のみを提供しています。在宅勤務と不要な出張の削減は、人々の日常生活の一部になりつつあります。

#### ジュリアン・マッケンジー

アクサ IM 香港 アジア太平洋最高執行責任者



グリニッジオフィスをスタンフォードに移転し、ニューヨーク、アトランタ、オランダのオフィススペースを最適化して CO2 排出量を削減し、持続可能性を向上させました。ニューヨークオフィスは LEED のゴールド認証を受けており、スタンフォードオフィスの貸主は建物を LEED<sup>18</sup> のゴールド認証

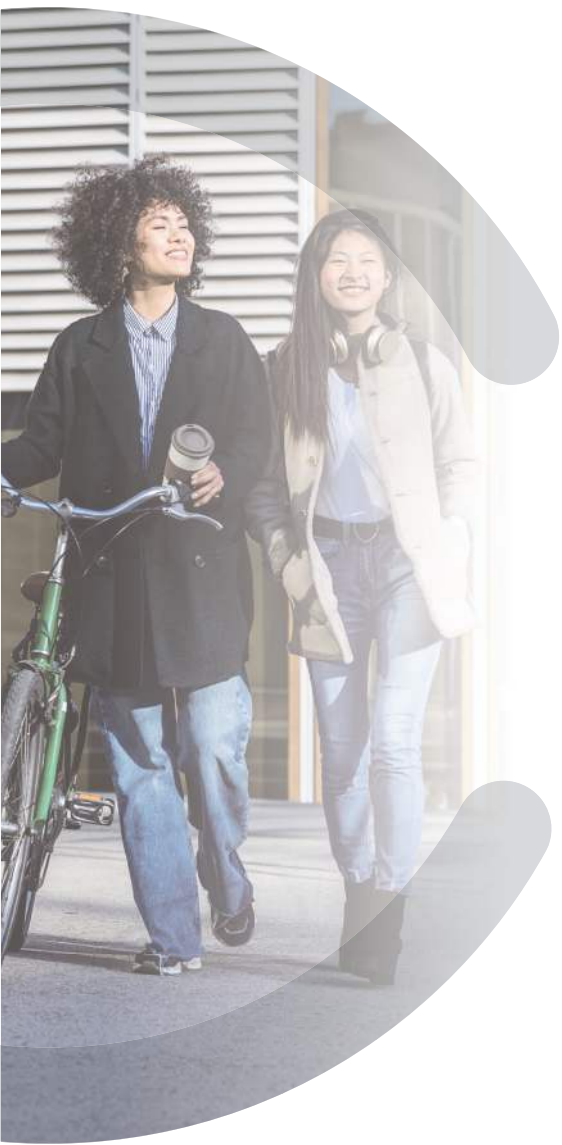
にすることにコミットしています。アクサ IM のオフィスは緑にあふれ、多くの植物と植生壁があります。持ち帰り用のコーヒーカップを再利用可能なカップに変更したり、ウォーターマシンを導入して使い捨てプラスチックを削減しています。

これらの問題に対する認識や懸念は、例えば欧州に比べて米国でははるかに低いと考えます。米国ではガスや電気が安いので、これらの問題に対する従業員のエンゲージメントが少ないのです。また、グリーン電力を調達することも難しく、アクサ IM が賃借しているオフィススペースの管理権限は限られているため、エネルギー調達において影響を与えることは容易ではありません。しかし、全体としては持続可能性に対する考え方は少し変わってきていると思います。一歩ずつ小さな歩みを進め、従業員がしっかりと取り組みに参加していることが大切です。

#### フロリアン・ブゾー

アクサ IM 米国 最高執行責任者

<sup>18</sup> [Leadership in Energy and Environmental Design](#)



# 従業員エンゲージメントを高める

---

アクサ IM は、組織のあらゆるレベルの人々に ESG と持続可能性について学ぶ機会を提供することにコミットしています。そして、従業員の育成目標に「学びと意識向上」に関する ESG 開発目標を盛り込みました。





積極的な内部での  
エンゲージメント

目標は2022年末までに100%

2022年12月末現在、  
**100%**の  
従業員<sup>19</sup>が学習・  
意識向上セッションに  
参加しました。

<sup>19</sup> 対象範囲は2022年11月30日現在でジョイントベンチャーを除くすべての現役正社員です。

## 従業員エンゲージメントを高める

2022 年末までに、アクサ IM の従業員の 100% がアクサ気候スクールが作成したアクサ気候アカデミーの研修プログラムを終了しました。このコースでは、地球規模の気候変動に関連する主なリスクから、従業員が自らの炭素排出量削減に貢献する方法まで、幅広い題材を取り上げています。

➤ この目標に対するアクサ IM の進捗状況の詳細については、双方向型の**プログレスモニター（英文）**をご参照ください。

### 次にできること

アクサ IM は、2023 年末までに従業員の少なくとも 70% が追加の意識向上セッションに参加するという野心的な目標を掲げ、その達成に向けて 2023 年の取り組みを強化します。気候変動に

関する知識を深め、生物多様性や私たちが共同で直面する持続可能性に関する課題にどのように取り組むかについて学ぶことを従業員に促すことが目的です。



“

アクサ IM は、2050 年までに企業としても投資家としてもネットゼロを達成するという野心的な目標を掲げています。全従業員が気候変動リスクとより広範な持続可能性環境を理解して初めて、これらの目標を達成することができます。意識向上と学びは、個人のエンゲージメントを持続させるための基盤です。従業員が個人として果たすことができる役割だけでなく、責任ある資産運用会社として全員が一丸となって果たす必要がある役割についても理解を深める一助となります。まずは ESG 開発目標を全従業員に展開し、そして ESG 目標を上級職の報酬に反映させることで、この信念がアクサ IM の行動に反映されていることを願っています。

”

フレデリック・クレモン

アクサ IM パリ  
人事部グローバル・ヘッド



### ESG と連動する報酬

アクサ IM は現在、上級職の報酬に ESG 目標を含めています。

2023 年から、約 400 名の繰延報酬には従業員の業務分野および権限に応じた既存の項目に加え、追加の ESG 指標が含まれます。



# 共に さらに前進する

---

気候変動と生物多様性の喪失の問題への取り組みを進めるためには、協働的なアプローチが必要です。個人、企業、政府が単独で成し遂げることはできないため、集団での行動が不可欠です。アクサ IM は多くの業界イニシアチブに積極的に参加し、業界の課題に対応できるよう、サステナビリティに関する公共政策や規制の形成にも関与しています。



## 共にさらに前進する

アクサ IM は、他の資産運用会社、政策当局、業界のリーダーと協力し、以下のグループやイニシアチブにおいて意義のあるソリューションに向けてリソースを集約しています。

### 01

グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマークのネットゼロ・ワーキンググループ：**メンバー**

不動産のネットゼロの意味は何かについて考えの相違を引き起こす核となる前提と信念を探求するために設立されました。

### 02

炭素リスク不動産モニターの科学諮問委員会：**メンバー**

委員会は、プロジェクトの成果の科学的、技術的完全性に対して貴重な貢献を果たします。

### 03

ネイチャー・アクション 100：**創設メンバー**

自然と生物多様性の喪失を反転させるための企業の野心と行動を促進することに焦点を当てた、新しい世界的な投資家エンゲージメント・イニシアチブです。



### 04

生物多様性のためのファイナンス財団：**共同議長**

知識とベストプラクティスを共有し、生物多様性への影響指標に関する協働的取り組みを実施し、最終的には保全と回復を目指すワーキンググループです。

### 05

ネットゼロ・アセットマネージャーズ・イニシアチブ：**メンバー**

2050年までに GHG 排出量を実質ゼロにするという目標を支援することを約束した資産運用会社の国際グループです。

### 06

ケムスコア：**メンバー**

有害化学物質に焦点を当てた共同作業イニシアチブです。

### 07

FAIRR：**メンバー**

グローバルな食品サプライチェーンにおける ESG リスクと機会の認識を高める投資家ネットワークです。



## 共にさらに前進する

### アクサ IM のアドボカシー活動

アクサ IM にとって投資先企業がグローバルおよび欧州の持続可能性基準に沿っていることは重要であるため、これらの基準が明確であり、私たちの業界の課題を考慮していることを確実にするために積極的な役割を果たす必要があります。

“

「2022 年、アクサ IM は「グリーン」や「持続可能な」投資に該当するものは何かについて、これまでよりもはるかに明確な定義を求めてアドボカシー活動を続けました。定義と規制は標準化され、比較可能で、強固で、科学に基づくものである必要があります。そして、すべての投資家区分の皆さまが理解でき、企業や金融セクターが同様にアクセス可能であるべきです。

アクサ IM は、欧州サステナブル・ファイナンス・フォーラムの SFDR 諮問グループ、欧州委員会およびフランス財務省との対話を通じ、このメッセージを伝えてきました。

また、エンゲージメント活動の重要な部分である、株主としての議決権を行使する際に直面する技術的な難しさについても強調してきました。そしてアクサ IM は、より広範な発行体に対して、関連性のある比較可能な持続可能性関連の情報提供を引き続き提唱しています。こうした情報がなければ、投資チームは意思決定に ESG を組み込むことができません。

2023 年はこの分野の公共政策にとってもう一つの画期的な年になるでしょう。3 月、アクサ IM はサステナブル・ファイナンスに関する欧州委員会のプラットフォーム第 2 期の専門家メンバーとして選出されました。新しい規制が特に欧州連合において、確実に実用的でアクセス可能となるように、政策当局が力を注げるよう支援することを楽しみにしています。」

”

クレメンス・ウメウ  
アクサ IM パリ  
責任投資コーディネーション・  
ガバナンス・ヘッド





## 将来を見据えて

アクサ IM は、アクサ IM のこれまでの進捗状況を見直し、その進捗が十分に野心的であること、そしてアクサ IM の戦略的目標に沿っていることを確認するよう努めます。

アクサ IM は今後もすべての活動にスチュワードシップの考え方を適用し、エンゲージメントを次のレベルに引き上げます。スチュワードシップは、資産運用会社がグリーンで公正な移行を推進するための重要なメカニズムです。同様に、業界全体で協働して行動し、自らと業界の責任を果たすために、イニシアチブにおいて積極的な役割を果たすことも重要です。

世界のネットゼロ目標を達成するため、私たちが迅速に、共に行動しなければならないことに疑いの余地はありません。

グテーレス国連事務総長が述べたように、

**「つまり、私たちの世界は、あらゆる対策をあらゆる場所で一斉に講じるよう、あらゆる方面において気候行動を必要としているのです」。**

#### ディスクレーム

投資においては、損失を被るなどのリスクがあります。

掲載されている企業は、あくまで例示を目的としたものです。

本資料は情報提供のみを目的としており、特定の有価証券やアクサ・インベストメント・マネージャーズまたはその関連会社による投資、商品またはサービスを購入または売却するオファーを構成するものではなく、またこれらは勧誘、投資、法的または税務アドバイスとして考慮すべきではありません。本資料で説明された戦略は、管轄区域または特定のタイプの投資家によってはご利用できない可能性があります。本資料で提示された意見、推計および予測は掲載時の主観的なものであり、予告なしに変更される可能性があります。予測が現実になるという保証はありません。本資料に記載されている情報に依存するか否かについては、読者の独自の判断に委ねられています。本資料には投資判断に必要な十分な情報は含まれていません。

#### 投資リスク及び費用について

アクサ IM が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行います。当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、アクサ IM の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

#### ご留意事項

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが作成した英文資料をアクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳したものです。

日本語への翻訳に際しては、その解釈や表現に細心の注意を払っていますが、万一英文と日本語文の間に解釈や表現の違いが生じた場合には英文が優先します。

当資料は情報提供を目的としたものであり、アクサ・インベストメント・マネージャーズにおいて、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料のすべての情報は経済や市場統計の公式の提供者により提供されたデータに基づいて作成されています。アクサ・インベストメント・マネージャーズは当資料に基づいて、または、当資料に依存してなされた決定についてなら責任を負うものではありません。この情報は、全体であれ、部分的であれ、アクサ・インベストメント・マネージャーズの承認がない限り、複製が禁止されています。

SFDR の特定の側面は、本レポートの公表日現在における解釈とは異なる新たな解釈および異なる解釈の対象となる可能性があります。アクサ IM は、SFDR に基づく金融商品の分類に関する継続的な評価および現在のプロセスの一環として、適用される規制の範囲内において、市場慣行の変化、独自の解釈、SFDR 関連法令または現在適用されている委任規制、国内もしくは欧州当局からの連絡、または SFDR の解釈を明確にする裁判所の判決などを反映し、商品の分類を随時修正する権利を有しています。投資家は、SFDR に記載された情報のみに基づいて投資判断を下すべきでないことに留意すべきです。

持続可能性関連の詳細については、こちらをご覧ください (<https://www.axa-im.com/what-is-sfdr>)。

MSCI および、MSCI データのコンパイル、計算、作成に関与または関連するその他の当事者のいずれも、当該データ（またはその使用によって得られる結果）に関して、明示的または黙示的な保証または表明を行いません。また、これらの全当事者は、当該データに関する独創性、正確性、完全性、商品性、または特定目的への適合性に関するすべての保証を明示的に否認します。上記を制限することなく、いかなる場合においても、MSCI、その関連会社、またはデータのコンパイル、計算、作成に関与または関連する第三者は、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的、またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）についても、たとえそのような損害の可能性が通知されていたとしても、一切の責任を負いません。MSCI の書面による明示的な同意がない限り、MSCI データのさらなる配布または普及は許可されていません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号：関東財務局長（金商）第 16 号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

#### 重要事項：

気候または持続可能性に関連する指標およびその基となる排出量データは、それらの測定に使用される手法および性質固有の限界から生じる測定上の不確実性による影響を受けます。関連データの入手可能性は限られています。それらのデータは発行体によって体系的に開示されていない、もしくは発行体によって開示された、または第三者データ提供者から収集された場合でも、不正確、不完全、または異なる報告方法がとられている可能性があります。データソースと方法論は、時間の経過とともに進化し、改善されることが期待され、目標および目標の達成に重大な影響を及ぼす可能性があります。

上記の目標は、経営陣の現在の予想を反映したものであり、アクサ IM が投資している発行体、サプライヤーおよびその他の第三者の行動、ならびにアクサ IM の管理の及ばない様々な政治、経済、規制、市民社会および科学の発展を含む、多くの仮定、変数および不確実性に左右されます。アクサ IM の目標および移行のためのあらゆるスケジュールが、全体的にまたは部分的に達成されるという保証はありません。

特に記載のない限り、すべてのデータは 2022 年 12 月末現在のデータです。

デザイン・製作：Internal Design Agency (IDA) | 2-011189 / 2023 写真提供：Gettyimages